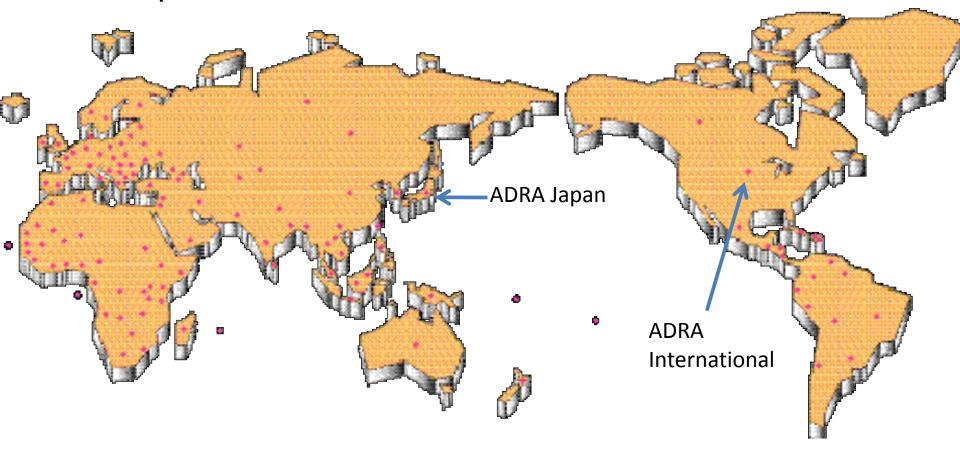
平時からの取り組みと ADRAの支援活動



(特活) ADRA Japan (アドラ・ジャパン)国内事業担当 渡辺日出夫

ADRA (アドラ/Adventist Development and Relief Agency)

世界約120カ国に支部をもつ、ネットワーク型の国際NGO ADRA Japanは、1985年に設立



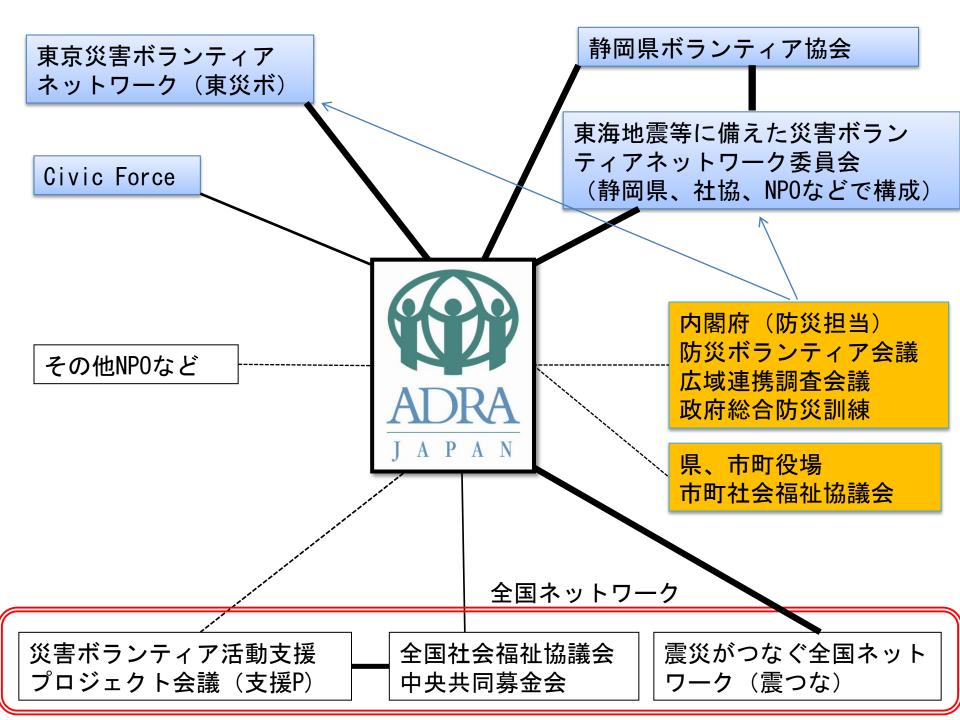
•本部(ADRA International): アメリカ ワシントンD.C

平時からのつながり 顔の見える関係 をつくる!



2008年、静岡県袋井市及び災害支援団体Civic Force と協働し、静岡県袋井市にて「避難所運営シミュレーション」を実施。地元自治会住民のみで1,000人が参加し、住民自ら避難所運営を体験した。

この事業をきっかけに、行政、住民、企業、NPOとの関係構築を本格的に開始。



2008年以降のつながり

☆内閣府

平成22年度「政府防災訓練」

平成22年度「政府図上訓練」

「防災ボランティア活動検討会」

「防災ボランティア活動の広域連携に関する調査会」

☆静岡県/住民

平成21年度「静岡県総合防災訓練」

平成20年度「袋井市地域防災訓練」

静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練

☆災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P) 災害ボランティアセンター運営支援者研修

住民

潤滑油であり脇役であること

企業

行政



2011年3月11日 14時46分頃 東北地方太平洋沖地震発生

仙台市・名取市(3月12日上空より撮影)



3月12日より被災地の以下機関から情報収集し、炊き出しなどの支援を開始

- ▶政府現地対策本部(宮城県•福島県)
- ▶宮城県社会福祉協議会
- ▶仙台市社会福祉協議会





リエゾンとしての活動(政府とNPOの連絡調整)

3月13日より「政府現地対策本部会議」にボランティア代表として出席し、NPOやボランティアの動向などを報告するとともに様々な要望などを提出。

また、政府現地対策本部長(防災担当副大臣)の要請を受け、東京で全国ネットワークの設立を準備を進めてもらうため橋渡しなどを行なう。



東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN) 設立

宮城県、県社会福祉協議会、せんだい・みやぎNPOセンターなどの地元団体も巻き込みながら調整を行なう。

ADRAの活動

- 3月:仙台市内の避難所運営、炊き出し高齢者福祉施設への支援物資配布
- 4月~7月:山元町での「アドラ食堂」運営
- 4月~: 仮設住宅入居時の生活必需品の配布 (亘理郡山元町、亘理町、東松島市)
- 6月~: 仮設住宅入居時の生活必需品の配布 (福島県の12市町)
- 8月:山元町でかき氷祭、足湯などのイベント実施
- 9月~: 山元町仮設住宅支援を社協などと協働で

実施

ADRA Japanの 被災地の活動

宮城県

• 支援先避難所

物資支援先の 高齢者施設



<アドラ食堂>

山元町役場・社会福祉協議会の要請を受け、ADRA Japanは町災害対策本部員で被災し、避難所暮らしの職員向けの食堂(通称:アドラ食堂)を4月6日から7月31日まで運営し、毎日3食述べ約12,500食

を提供しました。

役場職員も 被災者!





く仮設住宅入居時の生活必需品の配布>

宮城県亘理郡山元町(1,038世帯)、亘理郡亘理町(1,126世帯)、東松島市(1,320世帯)の仮設住宅入居者及び福島県の12市町(17,500世帯)に対し、布団・調理器具・食器・生活用品などの生活必需品の配布を行なっています。







3つのポイント

1 復興支援は長期にわたる

⇒ 海外でも国内でも同じこと! でも、社会はスグに忘れる。 小さくても息の長い定期的な訪問などの「私達は忘れていない」ということを 伝えていく支援が必要

2 多角連携で垣根を作らない

⇒ 横連携を超えた多角連携が必要。 地元行政や社協、NPOとの連携・協働は必須!

3 主役は被災者、我々は脇役(黒子)

⇒ 復興には数年がかかる。私達のような外部からの支援者は「短期のよそ者」に過ぎない。 どうやって主役の気持ちを切らさないようにサポートするかが鍵となる。



ありがとうございました

被災地の復興を支える「ふるさと復興サポーター」募集中!

↓ 詳しくはホームページで ↓

www.adrajpn.org